

県立博物館 移動博物館事業 本物に触れる体験を！
～博物館がやってきた！ in 喜界町～

文化財課

移動博物館事業

南北600kmにおよぶ鹿児島県には、普段からなかなか博物館を訪れることができない方々もいらっしゃいます。そこで「本物に触れる体験をしてほしい」と



【本物!】

という願いから、年に一か所、島しょでの移動博物館を開催しています。令和2年は、大島郡喜界町役場内コミュニティセンターを会場として、11月26日～29日に開催しました。

展示

本年は、特に新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用や手指消毒、換気等を励行し、開場しました。授業で見学を訪れた児童・生徒たちからは、喜界島では見られないタヌキ、キツネなど動物のはく製に「こんなに大きかったんだ。」「ひげも生えているね。」などの驚きの声も聞かれ、本物から伝わる様々な情報を楽しんでいるようでした。



【生きているみたい】

また、「郷土の自然紹介」コーナーでは、喜界島の自然について地質、植物、昆虫、動物の分野ごとに解説や展示をしました。特に昆虫では、喜界島に生息する日本最小のカブトムシ、クロマルカブトムシを紹介したり、地質では喜界島の立体模型とともに島の成り立ちや地層の特色を展示したりしました。



【化石って重いね!】

液体窒素の実験

島内の児童・生徒等を対象に、液体窒素を用いた「とほうもなく冷たい実験」を行いました。マイナス196℃の世界では、空気の体積が小さくなる

など、驚きの体験をしてもらいました。ドライアイスの雪を降らせる実験では、滅多に雪を見ることのない喜界島の子供たちは歓声を上げていました。



【雪が降ってきた!】

工作実験・創作活動

土曜日と日曜日には、へびにタッチできる「触ってみよう」のコーナー、コマやジュズダマのかざりを作る工作実験、石に思い思いの絵を描くストーンペインティングの活動も行いました。両日は地元の喜界高校のボランティアに協力を頂き、運営補助として活躍してもらいました。



【喜界高校のボランティア活躍】

人口6,800人あまりの喜界町ですが、4日間で延べ3,500人を超える参加者がありました。「島の子供たちにこのような経験をもっとさせたい。」「来年も来てください。」という嬉しい感想もいただきました。今後も継続して博物館は県内各地で「本物」の体験と感動をお届けしたいと思います。